

V 佐倉ホワイエ

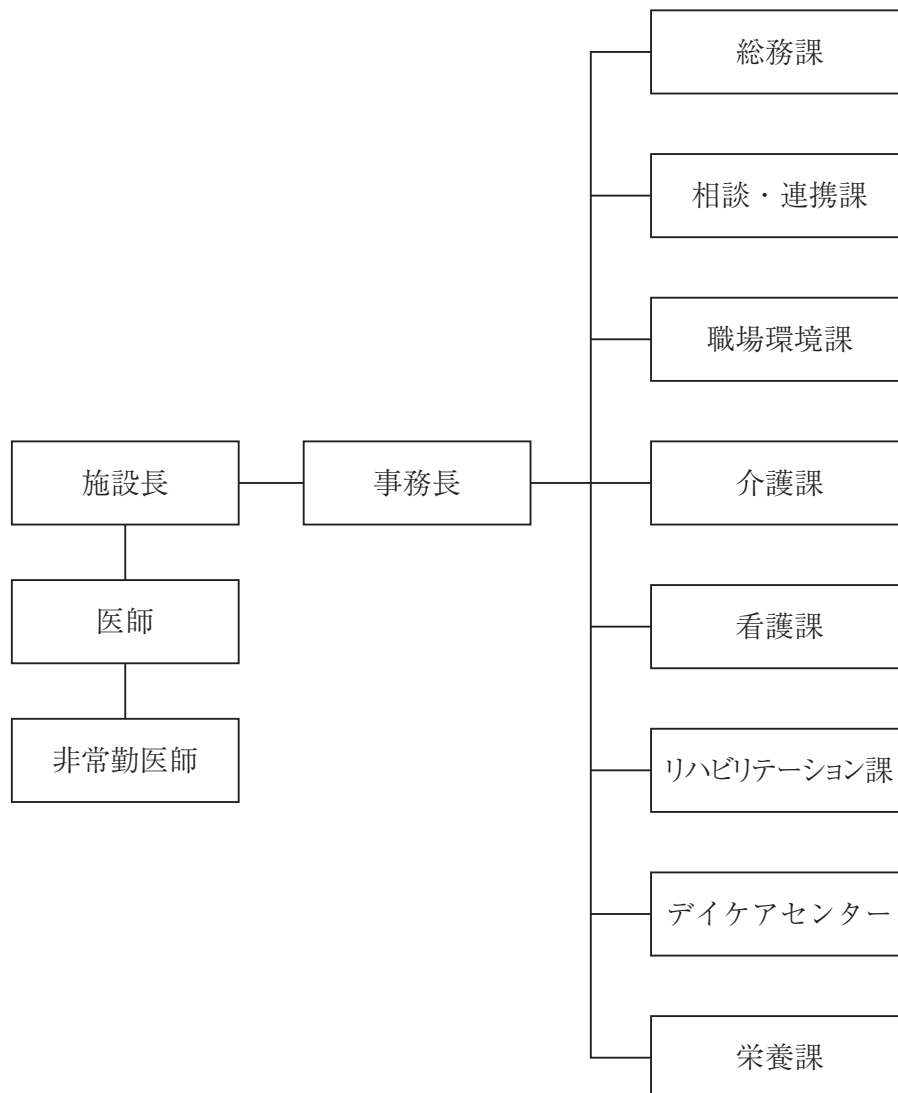
1 現況

概要

所在地 〒285-0025 千葉県佐倉市鎗木町336番地
 TEL 043-484-4680
 開設年 平成2年

施設長 遠山正博
 入所定員 80人

組織図



事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

各種認定資格

●医師

2024年3月現在

氏名	認定機関	認定資格
遠山 正博	日本老年医学会	老人保健施設管理認定医
	全国老人保健施設協会	認知症短期集中リハビリテーション研修修了

●総務課

氏名	認定機関	認定資格
香取 文男	厚生労働省	社会福祉主事
	日本慢性期医療協会	リスクマネジメント研修修了
加藤 昌宏	日本産業廃棄物処理振興センター	特別管理産業廃棄物管理責任者
	千葉県公安委員会	副安全運転管理者
島 雅之	日本医療教育財団	ケアクラーク
	日本産業廃棄物処理振興センター	特別管理産業廃棄物管理責任者
	日本防火・防災協会	防災管理者／防火管理者

●相談・連携課

氏名	認定機関	認定資格
石田 康之	厚生労働省	社会福祉士／介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
岡田 大輔	厚生労働省	社会福祉士／介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員

●介護課

氏名	認定機関	認定資格
丸山 恵	厚生労働省	社会福祉士
	中央職業能力開発協会	介護アテンドサービス士
	日本認知症ケア学会	認知症ケア専門士
	シルバーサービス振興会	介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者
関口 翔平	日本介護福祉士会	介護福祉士実習指導者
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級
	日本認知症ケア学会	認知症ケア専門士
	シルバーサービス振興会	介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者
藤江 誠	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級
	シルバーサービス振興会	介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者
坪井 真司	厚生労働省	社会福祉主事
佐久間 絢香	千葉県	高齢者施設等への応援職員派遣体制にかかる感染防止対策研修修了
中山 陽介	千葉県	高齢者施設等への応援職員派遣体制にかかる感染防止対策研修修了
知念 亮子	千葉県	高齢者施設等への応援職員派遣体制にかかる感染防止対策研修修了
砂川 洋介	千葉県	認知症介護実践研修修了
泉澤 亜由美	介護プロフェッショナルキャリア段位制度 レベル認定委員会	介護プロフェッショナルキャリア段位制度レベル2①

●リハビリテーション課

氏名	認定機関	認定資格
金子正樹	厚生労働省	臨床実習指導者
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級
佐田龍吾	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修修了
依田香保	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修修了
平澤美枝子	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修修了
森本未来	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修修了
田代舞	日本リハビリテーション病院・施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修修了

●デイケアセンター

氏名	認定機関	認定資格
黒川修一	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級
	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修修了

●厚生園ケアマネジメントセンター

氏名	認定機関	認定資格
高橋隆彦	厚生労働省	社会福祉士／介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	主任介護支援専門員
内藤順江	厚生労働省	介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	主任介護支援専門員
村上育子	厚生労働省	介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
外村直樹	厚生労働省	介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	主任介護支援専門員
佐藤由美	厚生労働省	介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

施設利用状況

			2021年度	2022年度	2023年度
1日平均入所者数(人)	介護老人保健施設	要介護1	3.6	4.1	5.3
		要介護2	15.7	16.2	15.9
		要介護3	15.2	17.7	16.9
		要介護4	24.1	23.5	24.0
		要介護5	16.9	14.4	14.0
		計	75.4	75.9	76.1
	短期入所療養介護入所	要介護1	0.2	0.0	0.2
		要介護2	0.5	0.1	0.1
		要介護3	0.2	1.0	0.9
		要介護4	0.2	0.1	0.1
		要介護5	0.6	0.1	0.0
		計	1.6	1.3	1.3
合 計			77.0	77.2	77.4
1日平均通所者数(人)	通所リハビリテーション	要介護1	4.3	4.0	4.8
		要介護2	9.8	9.0	9.6
		要介護3	6.2	5.3	6.9
		要介護4	4.3	7.1	4.2
		要介護5	0.9	1.0	2.0
		合計	25.6	26.3	27.5
	予防通所リハビリテーション	要支援1	1.0	0.8	1.1
		要支援2	5.7	4.4	3.4
		合計	6.7	5.2	4.4
合 計			32.3	31.5	31.9
平均入所利用率(%)	介護老人保健施設		94.2	94.9	95.1
	短期入所療養介護入所		2.0	1.3	1.3
	合 計		96.2	96.2	96.4
平均通所利用率(%)	通所リハビリテーション		51.2	46.6	54.9
	予防通所リハビリテーション		13.4	10.8	8.9
	合 計		64.6	57.4	63.8
平均在所日数(日)	介護老人保健施設		546.8	793.0	839.6
	短期入所療養介護入所		12.7	5.6	8.5
	合 計		559.5	798.6	848.1
平均要介護度	介護老人保健施設		3.5	3.4	3.3
	短期入所療養介護入所		3.3	3.3	2.6
	合 計		3.5	3.3	3.0
在宅復帰率(%)		15.1	11.8	23.7	
利用者100人あたりの 従業員数	医師		1.1	1.1	1.1
	看護師・准看護師・介護職員		47.0	45.8	45.8
	支援相談員・PT・OT・ST		12.3	12.9	12.9
	その他		6.8	6.7	7.9
	合 計		67.2	66.5	67.7

2

業務実績

総務課

文責／加藤昌宏

スタッフ(2024.3現在)

事務員：常勤2名、非常勤2名
 常勤：加藤昌宏(課長)、島 雅之(主任)
 非常勤：杉山恵美子、小川雪江

活動状況

1. 利用料請求業務
利用料の自己負担分を利用者に請求するとともに介護保険請求業務を行った。
2. 環境管理業務
施設内の設備、清掃について、委託業者と連携し適正な環境管理を行った。
3. 備品管理業務
施設内で使用する備品の発注、受領、管理業務を行っ

た。

4. 受付業務

窓口にて来客応対業務を行った。

5. 介護報酬算定業務

介護報酬改定に向けて、情報収集および新加算の算定に向けた事務作業を行った。

上記業務を行う上で、廃棄物の低減、節電、節水等の省エネルギー化、経費の節減に努めた。

今後の目標

物価高騰に伴い、経費の増加が続いている。健全な経営に向け、更なる省エネ化、物品の適正価格での購入等、コストの削減を図ると同時に介護報酬改定後の算定可能な加算の届出を積極的に行い、増収に繋げていきたい。

相談・連携課

文責／石田康之

スタッフ(2024.3現在)

支援相談員：常勤2名
 石田康之(係長)、岡田大輔(主任)

活動状況

1. 入所利用者数の月別変動
入所実利用者は118人、入所(短期入所含む)延利用者数28,326人、1日平均77.4人、稼働率96.8%であった。入所利用者数は今年度11月、12月の体調悪化による入院退所者の増加、1月後半からの新型コロナウイルスクラスターの影響が大きくあったものの、昨年度の111人より微増であった。月別変動をみると、2024年1月後半から2月は新型コロナウイルスクラスターにより相談、受け入れを制限したこともあり、制限解除後もその影響が続いた。3月以降の利用率は改善傾向である。
2. 入所利用者の年齢、要介護度、入所経路
入所利用者118人を入所時年齢別にみると、80歳代は62人(52.5%)、90歳代は30人(25.4%)、100歳以上は1

人であった。昨年度は、それぞれ46.8%、28.8%、2人であったので、昨年度より80歳代の割合が増加したが、全体的に大きな変化はなかった。要介護度別利用者数は、要介護度5が15人(12.7%)、要介護度4が29人(24.6%)、要介護度3が29人(24.6%)であった。昨年度はそれぞれ14.4%、26.1%、22.5%であったので、昨年度と同様に要介護度4、要介護度5の割合が減少し、要介護度3の割合が増加した。入所経路についてみると、病院からの入所者は86人(72.9%)であり、昨年度の75人(67.6%)と比較し病院からの入所が増加した。居宅系(居宅、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、短期入所)からは、昨年度が31人(27.9%)であったのに対し、今年度は26人(22.0%)。老健からは昨年度は5人(4.5%)であったのに対し、今年度は6人(5.1%)であった。

今後の目標

感染予防対策を徹底した上で近隣病院と連携し積極的に受け入れを進めていきたい。居宅と入所の交互利用を推進し、在宅復帰率の向上を目指していきたい。

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

スタッフ(2024.3現在)

介護職員：常勤23名、非常勤9名

常勤：丸山 恵(課長)、関口翔平(係長)、
藤江 誠(主任)、坪井真司(副主任)、
保谷浩一(副主任)、児嶋禎一(副主任)、
鈴木厚祐(副主任)、中山陽介(リーダー)、
佐久間絢香(リーダー)、高橋麻莉菜、知念亮子、
藤野優由貴、長山ゆめか、堀江 泉、菅原あやか、
二葉 知子、白井元輝、井上 学、泉澤亜由美、
西條典子、豊田悦子、井上 咲、木村由美子
非常勤：鈴木恵子、小出芳枝、岡部真理子、片岡公子、
大久保すみ子、畠山裕子、柴倉すみ子、
松本史子、品川侑紀

活動内容

1. 危険発生予防の試み

新規入所者の動きや眠りの状態をいち早く把握するために、入所から1週間は眠りSCANを設置し、科学的根拠に基づきケアを提供した。適切なアセスメントが行えるようになったため、入所後まもなくの転倒などは減少した。

また、ヒヤリハットを積極的に報告し、毎週検討会を実施。センサーマットや眠りSCANの使用に限らず、注意喚起の貼り紙のほか、新たに床用すべり止め塗料を導入した。施設全体として取り組み、個人レベルから全体レベルに向けた取り組みが行えるようになった。

2. 介護職員の業務負担軽減の試み

排尿予測デバイス「DFree」を導入し、現在まで複数人の利用者に使用。排泄対応のケアを検討するデータとして積極的に使用している。尿道留置カテーテルを挿入している利用者に対しても、バルーン抜去の取り組みの際に「DFree」を使用。ある程度尿がたまったタイミングでトイレ誘導し排尿を促すことで、尿意を感じていただきやすい状況を作り出している。今後も尿意があいまいな方などに引き続き取り組んでいきたい。「DFree」を導入することで、おむつの使用量が減少し、利用者の皮膚状態も良好に保つことができれば、利用者および職員にとって有意義であると考えている。

また、入浴介助の負担軽減のため2つの機器を導入した。1つ目はスライディングシート。最近では持ち上げない介護として「ノーリフト」がうたわれている。当施設でも体格の良い利用者や身長の高い利用者が増え

ているため、小柄・年配の職員には移乗など難しい場面が多くなった。スライディングシートはシートの滑る力を使うため少ない力でも移乗させることができるほか、利用者側も体にかかる摩擦が減るため、皮膚を傷つけるなどのリスクを減らすことができる。当施設には年配の職員もいるので、業務内容によって職員を選ぶ必要がなくなり、誰でも行える業務が増えたことで職員の負担軽減のつながったと考える。

2つ目は「ビュアット」(ウルトラファインバブル発生装置)。利用者が入浴する浴槽にビュアットを使用することで、浴槽内にウルトラファインバブルを発生させ、お湯につかるだけできれいになるものである。入浴前のこすり洗いを最小限にできるため、利用者に対しては皮膚への摩擦を減らすことができる。また洗いにくいところも浴槽につかるだけで汚れが浮き上がり、清潔にできるため、利用者にとっても負担が少なく、快適な入浴につながることができた。また、入浴場面の介助は中腰になることが多くあるが、洗身の作業を減らすことで職員の身体にかかる負担も軽減され、業務の時間短縮にもつながった。

3. 感染症予防の取り組み

新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ感染症、疥癬などが発症したが、昨年度の経験から重症化することなく終息することができた。具体的には、各階でケアの従事を徹底、利用者のフロア間の行き来を防ぎ、職員同士のフロアを超えての関わりは最小限にするなど、これまでに学んだ感染対策を実施した。

また、これまでは感染対策のため外出やイベントなど控えていたが、新型コロナウイルスが5類に分類されたことから、施設内の大きなイベントとして、納涼祭と初詣を実施した。いまだ面会は制限中のため、ご家族の参加は控えていただいたが、納涼祭はかき氷やすいとん、射的などを出店し、それぞれ楽しんでいただくことができた。また、初詣は宗吾霊堂と麻賀多神社の選択制とし、外食を希望される方には、参拝後のレストラン外食コースに参加していただいた。初詣は体調や天候などに左右されてしまうため、全ての方に参加していただくことはできなかったが、体調を崩したり感染症を発症する方はいっしょらなかった。今後も利用者のストレス発散、社会とのつながりを持っていただくため、このようなイベントを継続して行っていきたい。

今後は面会制限の緩和などをはじめ、少しずつ元の施設の在り方に戻せるよう努力していきたい。

今後の目標

1. 職員の年齢幅や経験年数などにばらつきがあるが、大きな事故なく、それぞれの立場で感じるヒヤリハットをリアルタイムで解決できるよう連携に努める。
2. 介護ロボットの情報収集に努め、業務における悩みを人の力だけでなく、様々なものを駆使して解決できる

ようにする。業務の見直しを行い、研修や介護技術指導などにも力を入れられるよう、時間を有効に使う努力をする。

3. 感染予防に取り組みながら、利用者と家族との距離に配慮し、感染症を予防しながら行える交流を少しでも多く取り入れていく。

看護課

文責／清治恵子

スタッフ(2024.3現在)

看護師：常勤4名、非常勤3名
 常勤：清治恵子(師長)、篠田望美、神林祐子、
 神多野節子
 非常勤：小林貴代子、坂本悦子、宮内美子
 准看護師：常勤6名、非常勤1名
 常勤：梶内清治(主任)、長竹静子(副主任)、
 小川ひろ子(副主任)、長谷川順子、米嶋いつ子、
 森川美也子
 非常勤：長谷川敏子

様々な職種が連携し早期に支援していくことが大切となってくる。新型コロナで外部との接触がなかったが、5類となって初詣や外食する機会ができ入所者の活気が戻ってきた。

2. インフルエンザ、疥癬、新型コロナウイルス感染症が発生したが、全体に拡げることなく各階のみで終息した。4月の早期段階で全員参加のガウンテクニックの実施訓練を終了していたことが功を奏したといえる。コロナ対応については、専従職員を出せないため、細心の注意を払って感染拡大することがないように対応した。
3. 夜勤者の平均年齢が61.3歳と高く、夜勤負担感の声が上がったため、業務の見直しを行った。検温は週2回の入浴日とし、夕食後の排便コントロールの内用液は錠剤に変更したことで、負担軽減につながった。
4. 介護職員に緊急時対応について指導することで、知識の向上と協働体制の充実を図った。

活動状況

1. 入所利用者は平均年齢87.0歳で65歳から102歳と幅広い年齢層だが、後期高齢者は94%となっている。新規の入所者は35名で、佐倉厚生園病院から22人、近隣の病院から9人、他老健から1人、自宅から3人であった。退所者は38人で、入院20人(疾患はそれぞれ、肺炎、心不全、脳梗塞、貧血、腸閉塞、肺がん、大腿骨骨折、老衰等)、特養4人、老健2人、有料老人ホーム2人、自宅4人であった。肺がん末期の夫が緩和ケア病棟に入院するまで妻と過ごすことができたケースは印象深い出来事だった。今後は、老健施設の在宅に継ぐ中間施設という役割を発揮し、その人らしく生活できるように

今後の目標

1. 感染予防対策を徹底し安心して生活できる環境を提供する。
2. 利用者の特性を理解し、支援できるよう学びを深め看護の質の向上に努める。
3. 電子カルテに対処できるよう周知する。

リハビリテーション課

文責／金子正樹、平澤美枝子

スタッフ(2024.3現在)

理学療法士：常勤5名、非常勤1名
 常勤：金子正樹(理学・作業療法科主任)、
 佐田龍吾(副主任)、依田香保、萩野匡史、
 菊池嘉志
 非常勤：秋山大輔
 作業療法士：常勤1名
 鈴木亜矢
 言語聴覚士：常勤3名

平澤美枝子(言語聴覚科係長)、
 森本未来(副主任)、田代 舞(リーダー)

助手：常勤1名
 千葉哲也

活動状況

【入所】

- ・2023年度の新規利用者47人について、FMSでは軽度が増加した。HDS-Rでは中等度が増加した。重度の方には体調管理と廃用予防、中等度と軽度の方には自立

促進と重大事故を予防しながら、機能とADLの改善を図った。

- ・2023年度の短期集中リハビリテーション加算は2,515単位。認知症短期集中リハビリテーション実施加算は1,233単位を算定した。両加算を活用することで、入所初期から集中的にリハビリテーションを実施することが可能になり、早期の自立促進に寄与している。
- ・週1回開催のヒヤリハット検討会に継続的に参加した。事故を完全に予防することは困難だが、事故防止のアイデアは増えている。自動ブレーキ型車椅子を活用した事故予防と自立促進を進めたい。
- ・2023年度の経管栄養中の新規利用者は3人。入所中経管栄養となった利用者は6人。経口移行に取り組めた利用者は1人で、部分的な経口摂取にとどまり移行には至らなかった。今まで介入が難しかった嚥下咽頭期障害に対しての訓練に取り組み始めた。
- ・歯科衛生士による介護士への指導は延べ21回行われた。

FMS(点)	2021年度	2022年度	2023年度
40~48	3	5	3
32~40	4	2	11
25~32	10	3	11
17~24	6	8	8
9~16	4	3	4
0~8	9	9	10
その他	3	3	0
合計	39	33	47

HDS-R(点)	2021年度	2022年度	2023年度
26~30	2	2	3
20~25	6	4	4
16~20	5	4	12
11~15	8	5	10
6~10	8	4	7
0~5	4	8	4
その他	6	6	7
合計	39	33	47

【通所】

- ・2023年度の新規利用者36人について、前年度と比べ身体機能的に比較的軽度が多くなっている。歩行可能であるが実用レベルではないTUGでは30秒以上の利用者も多くみられた。認知機能的には中等度の利用者が増加した。前年度に減少していた新規利用者も回復傾

向であった。利用者の動向をとらえ必要とされるリハビリテーションの提供に努めていく。

- ・サービス担当者会議の参加と居宅訪問を行い、利用者や家族の要望や生活上の問題点を聴取・解決することで、当事業所の信頼獲得や役割の明確化に繋げられるよう心掛けた。2023年度は延べ89回参加した。
- ・引き続き、能力低下が明らかな要支援者の区分変更を促し、生活上必要なサービス提供を行った。

TUG	2021年度	2022年度	2023年度
13.5秒以内	5	2	11
20秒以内	10	7	9
20.1秒~29.9秒	7	5	2
30秒以上	6	4	11
不可	6	1	3
その他	1	4	0
合計	35	23	36

HDS-R(点)	2021年度	2022年度	2023年度
26~30	11	10	10
20~25	9	5	10
16~20	8	3	10
11~15	3	3	3
6~10	3	0	2
0~5	0	1	0
その他	1	1	1
合計	35	23	36

今後の目標

- ・入所は軽度者も増加した結果、在宅退所を見込める方が増えた。強化型指標獲得を目標に、週3回以上のリハビリテーションを2024年1月から開始した。今後、施設全体で居宅退所へのノウハウを蓄積し、在宅退所の流れを構築したい。
- ・通所は引き続き地域活動を通し、自治体・地域包括支援センター・居宅ケアマネジャー・地域の元気な高齢者との繋がりを太くし、介護予防へ貢献したい。また、居宅訪問を行いご利用者だけでなくその家族ともつながりを作ることにより、より長く住み慣れた環境で自分らしい生活を送れるよう、支援体制を充実させたい。
- ・介護保険上、口腔衛生の取り組みが評価されてきている。より充実した介入ができる体制を検討したい。

デイケアセンター

文責／黒川修一

スタッフ(2024.3現在)

理学療法士：常勤1名
黒川修一(センター長)

介護福祉士：常勤8名
前田美香(副主任)、山口真弓(リーダー)、
関口千恵美、中山彩夏、前田匠太、
池田 円、平田朱里、中田絵里子

介護職員：非常勤2名
丸山絵里奈、山本由佳

活動状況

1. 通所利用者数の月別変動
今年度の通所実利用者数は146人、通所延べ利用者数は9,827人、1日平均31.9人であった。前年度より全て増加している。理由としては、本年度5月から新型コロナウイルスが感染症法5類に移行されたことにより、利用者自身の感染への警戒心が薄れたことから、キャンセル数が減少したことや、相談数が徐々に増加したことがあげられる。また開催を制限されていた行事を実施したことも利用者数増へつなげたと考えられる。しかし5類移行後も感染症対策は継続されており、感染者については療養期間が減少しても一定期間の利用が中止となったり、疑わしい症状がある場合等は利用を控えてもらうこともある。今後も他の施設等の様子を見ながら必要な対応を検討していく。
通所終了利用者31人中、死亡により終了した5人を除く26人を終了理由別にみると、卒業は5人(19.2%)で昨年度の3人より増加し、サービス移行は11人(42.3%)で昨年度の13人より減少、利用継続不能となった利用

- 者は10人(38.5%)で昨年度の9人より増加した。
2. リハビリテーションからの活動報告
効果的・継続的なりハビリテーションの提供を目的としたリハビリテーションマネジメント加算B(ロ)やLIFEの加算を継続的に取得している。また退院後等の新規利用者には、短期集中リハビリテーション実施加算もしくは認知症短期集中リハビリテーション実施加算を取得し充実リハビリテーションを提供している。
生活行為向上リハビリテーション実施加算は1～3月に4ケース実施し、訪問を交えながら利用者の自宅入浴、自宅周囲の屋外歩行等に介入した。口腔機能向上加算も引き続き算定しており、今年度は前年度から実施している5ケースに加えて3ケースの算定を実施した。口腔・栄養スクリーニングも徐々に増加している。
移行支援加算について今年度は取得済み。また昨年1年間のデイケアセンターの卒業者の実績により、来年度も取得が可能となった。

今後の目標

- 今後も通所リハビリテーションとしての役割を果たすため、社会参加や家庭内役割の獲得を見据えたりハビリテーションを提供していきたい。
- 2024年6月に介護報酬改定があるため、できる限り新設の加算に対応していきたい。更なる稼働率向上のため、事業所への営業や施設の行事活動などにも力を入れていきたい。また地域に根差した施設として、地域包括センターなどから依頼のある地域活動へも積極的に協力していきたい。

栄養課

文責／尾田美穂

スタッフ(2024.3現在)

管理栄養士：常勤2名、非常勤1名
常勤：尾田美穂、細島ひさゑ(主任)
非常勤：示村真紀子

活動状況

1. 栄養ケア計画書の作成
2. 栄養ケアマネジメント強化加算算定(2024.2～)
3. 療養食加算(入所)、口腔栄養スクリーニング加算(通所)算定

4. 常食、ソフト食の選択食を月1回実施(入所2023.6～、通所2023.7～)
5. ミールラウンド(週3回以上)
6. 食数、食札の管理
7. 栄養情報提供書の作成
8. 退所時栄養指導の実施

今後の目標

個人に合った食形態、嗜好を考慮した食事内容を提供する。食事摂取量の向上を目指し、在宅復帰に貢献できるよう栄養ケアマネジメントを行う。

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

3

委員会活動

運営委員会

文責／加藤昌宏

◎目的

施設の経営方針、事業の進捗状況、実績状況などの運営が円滑に行えるよう各課の代表により検討する。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：遠山正博(施設長)

事務長：香取文男

総務課：加藤昌宏、島 雅之

相談・連携課：石田康之

介護課：丸山 恵、関口翔平

看護課：清治恵子

リハビリテーション課：平澤美枝子

デイケアセンター：黒川修一

栄養課：尾田美穂

◎開催日

毎週火曜日、午後3時

◎活動報告

施設長を中心に各課代表による構成。施設運営の根幹となる事項を検討し、事業成績の向上を図った。

◎今後の目標

継続して、業績の向上を図る。

入退所検討会

文責／石田康之

◎目的

入退所決定の透明性、公平性を確保し、より適切な介護サービスの提供を行う。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：遠山正博(施設長)

総務課：香取文男

相談・連携課：石田康之、岡田大輔

介護課：関口翔平

看護課：清治恵子

リハビリテーション課：金子正樹、田代 舞

デイケアセンター：黒川修一

栄養課：尾田美穂

◎開催日

毎週火曜日、午後2時

◎活動状況

新規入所判定について、病院からの利用者は32人、居宅系からの利用者は5人であった。今年度も新型コロナウイルスクラスターによる影響はあったものの、全体的に大きな変動はなかった。入所利用者については、入所初期から今後の方向性を議論したことで、在宅復帰に繋げることができた。計37回実施。

◎今後の目標

入所初期から情報を共有し、在宅復帰率の向上を図る。

虐待防止検討委員会

文責／香取文男

◎目的

利用者の安全と人権保護の観点から、適正な支援を実施する。利用者の自立と社会参加のための支援を妨げることのないよう、必要に応じ、随時、委員会の開催と研修を整備し、虐待の防止に努める。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：香取文男(事務長)

相談・連携課：岡田大輔

介護課：丸山 恵、保谷浩一、藤野優由貴

看護課：長竹静子

リハビリテーション課：森本未来

◎開催日

第3火曜日、午後0時30分

◎活動報告

虐待防止に関する指針の策定と既存の虐待防止マニュアルを現行の関係法令に準拠したものに更新。指針の策定とマニュアルの作成を行った。今後も、関係法令改正時は、随時、見直しを行う。

新入職者向け研修と在職者向けの研修を開催し、虐待防止に関する知識を習得できる研修カリキュラムを検討した。新入職者研修は、対象者が該当する時に随時行い、在職者向けの施設内研修は、年2回開催した。

◎今後の目標

介護保険法で義務付けられた法整備と研修を実施し、今後も虐待防止に関する取り組みを押し進める。

事故防止検討委員会

文責／香取文男

◎目的

安全かつ適切に質の高い介護サービスを提供するために、介護による事故を未然に防ぐ。万が一、事故が発生した場合は、速やかな対応と同じ事故を繰り返すことのないよう、知識の習得と研修を実施する。組織的に事故防止対策に取り組み、利用者の安全で快適な生活を守るように努める。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：香取文男(事務長)

相談・連携課：石田康之

介護課：丸山 恵、佐久間絢香、菅原あやか

看護課：長竹静子

リハビリテーション課：依田香保

◎開催日

第2火曜日、午後0時30分

◎活動報告

事故防止に関する指針の策定と既存の事故防止マニュアルを現行の関係法令に準拠したものに更新。指針の策定とマニュアルの作成を行った。今後も、関係法令改正時は、随時、見直しを行う。

新入職者向け研修と在職者向けの研修を開催し、事故防止に関する知識を習得できる研修カリキュラムを検討した。新入職者研修は、対象者が該当する時に随時行い、在職者向けの施設内研修は、年2回開催した。

◎今後の目標

介護保険法で義務付けられた法整備と研修を実施し、今後も事故防止に関する取り組みを推し進める。

身体拘束検討委員会

文責／香取文男

◎目的

利用者等の生命および身体を保護するため、緊急のやむを得ない場合を除き、身体拘束その他の利用者の行動を制限する行為を禁止する。拘束廃止に向け、身体拘束をしないケアの実施に努める。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：香取文男(事務長)

相談：連携課：岡田大輔

介護課：丸山 恵、保谷浩一、藤野優由貴

看護課：長竹静子

リハビリテーション課：森本未来

◎開催日

毎週第3火曜日、午後0時30分

◎活動報告

今年度の拘束者は4人(鼻腔チューブ自己抜去2人、認知症による暴言・暴力行為2人)であった。新型コロナウイルス感染症の流行が終息せず、ボランティア活動の休止や直接面会が行えないストレスから、不穏行動や徘徊、自傷行為が認められた。現在、鼻腔チューブ自己抜去1人以外は解除されている。在職者向けの施設内研修を年2回開催した。

◎今後の目標

身体拘束の弊害(人権擁護、高齢者のQoL低下防止)に向けた意識を持ち、身体拘束をしないケアの実施に努めながら、利用者の生命と身体の保護に向けた取り組みを実践する。

感染対策委員会

文責／清治恵子

◎目的

感染症や自然災害発生時も業務を継続して行えるように感染部門・防災部門で各種マニュアルを整備し、予防意識や知識・技術の向上に努める。防災対策や定期的な避難訓練の実施・見直しを行う。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：清治恵子(看護課)

総務課：加藤昌宏、島 雅之

介護課：関口翔平、豊田悦子、二葉知子

看護課：梶内清治、小川ひろ子

リハビリテーション課：佐田龍吾

デイケアセンター：黒川修一、山口真弓

◎開催日

第3火曜日、午後0時30分

◎活動状況

新型コロナウイルス感染症編のマニュアルを改定した。ガウンテクニク、手洗い等の実地研修を年間11回開催し、感染予防に努めた。

防災訓練は、コロナ禍にあり通常時と同様には実施できないため、管轄消防署と相談し、引き続き最少人数での口頭説明とした。また、新型コロナウイルス感染症発生時と自然災害発生時におけるBCPの見直しを行った。

◎今後の目標

継続的なPDCAの実施と見直しを行い、非常事態に備える。感染症予防はもとより、発生時に適切な対応ができるようにマニュアルの改訂や実地研修を行う。

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

褥瘡改善委員会

文責／米嶋いつ子

◎目的

褥瘡予防、発生減少を目指す。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：米嶋いつ子(看護課)

相談・連携：岡田大輔

介護課：丸山 恵、知念亮子、高橋麻莉菜

看護課：神多野節子

リハビリテーション課：田代 舞、萩野匡史

栄養課：尾田美穂

◎開催日

第1水曜日、午後1時00分

◎活動状況

利用者の褥瘡ケア計画書・自立支援計画書を3ヶ月毎に作成。2023年の褥瘡発生は2人、治癒に要した期間は1～3週間であった。2022年よりエアーマットを導入しており、褥瘡発生前に低栄養や発生リスクの高い利用者にエアーマットを使用したり、時間毎の体位変換を実施した。また、各課と連携したことで前年度より褥瘡発生件数は減少した。

◎今後の目標

各課連携し褥瘡発生予防と早期発見に努める。

排泄検討委員会

文責／児嶋禎一

◎目的

排泄全般に関わる項目での改善を目指す。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：児嶋禎一(介護課)

総務課：加藤昌宏

介護課：丸山 恵、鈴木厚祐

看護課：森川美也子

リハビリテーション課：萩野匡史

◎開催日

第1火曜日、午後0時30分

◎活動報告

利用者の排泄支援計画書を3ヶ月毎に作成した。利用者および介護者の心身の負担軽減を図るため、介護ロボット(DFree)を用いて各利用者の排泄パターンを確認し、各々に適したケアを提供することで、漏れ軽減を図った。トイレ内において排泄動作での事故防止をするため、環境整備および維持に努めた。便の性状が緩く漏れの多い利用者に対しては、医師と連携し服薬調整をすることで、漏れの改善およびオムツの在庫量削減に繋げた。

◎今後の目標

介護ロボット(DFree)を積極的に用いながら、各課との連携を図り、個々の能力を最大限に活かした排泄支援を行っていく。

栄養委員会

文責／尾田美穂

◎目的

全ての利用者を対象とし、個々に見合う充実した食事の提供と栄養状態の維持、向上を目指す。

◎メンバー(2024.3現在)

員長：尾田美穂(栄養課)

総務課：加藤昌宏

相談・連携課：岡田大輔

介護課：丸山 恵、佐久間絢香、長山ゆめか

看護課：米嶋いつ子、神多野節子

リハビリテーション課：田代 舞、萩野匡史

デイケアセンター：池田 円

栄養課：細島ひさる

◎開催日

第1水曜日、午後0時30分

◎活動報告

健康管理の一環として、個々の利用者の栄養管理について対策を講じ、栄養状態の改善、疾病の予防、QoL向上に努めた。また、6月から入所、7月から通所において、月1回の選択食を開始し、食事に対する興味や意識を高め、食思向上に努めた。残菜量の多い献立を見直し、喫食率の向上と食材残渣量の減量に努めた。新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生時は、ディスプレイ・食札による食事の提供と、配膳車等の消毒を徹底し、感染拡大防止に努めた。

◎今後の目標

喫食率の更なる向上、低栄養状態の高リスク対象者の低減、褥瘡予防に寄与する。

職場精神衛生管理委員会

文責／平澤美枝子

◎目的

就業意欲が向上する職場環境を創出する。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：平澤美枝子(リハビリテーション課)

事務長：香取文男

相談・連携課：石田康之

介護課：丸山 恵、中山陽介、泉澤亜由美

看護課：長谷川順子

リハビリテーション課：菊池嘉志

デイケアセンター：前田匠太

◎開催日

第4水曜日、午後0時30分

◎活動報告

- ・施設内研修の年間計画と進捗管理を行った。各研修の企画については引き続き担当の課や委員会に依頼し、より実用的な内容で行えるようにした。
- ・新入職者定着のための面談(3・6・12か月)を延べ4回実施した。
- ・新入職者研修の日程を見直した。講師と受講者からの意見を聴取し、これまで集中的に約2日間で行っていたものを約2週間かけて実施するよう変更した。
- ・新入職者テキストを見直し、入職時に必要な項目を追加した。
- ・委員会を通すことで職場環境の改善に関わる事項に決定の遅れが生じることが増え、委員会活動そのものを見直すこととした。新入職者面談や研修テキスト改訂など残った課題は関連の強い部署へ引継ぎ、閉会とした。

医学研究推進委員会

文責／島 雅之

◎目的

公益財団法人の医学研究推進のため、委員会を設立。厚生園病院で開催される同名委員会議事を共有し、老健ならではの研究を目指す。研究自体に不慣れであるため、手順や基礎知識などの普及に努める。また、千葉県老人保健施設大会、全国老人保健施設大会、医学フォーラムでの発表を推進・支援する。

◎メンバー(2024.3現在)

委員長：島 雅之(総務課)

総務課：加藤昌宏

介護課：丸山 恵、関口翔平、藤江 誠

看護課：神林祐子

リハビリテーション課：金子正樹、平澤美枝子

デイケアセンター：黒川修一

◎開催日

第4火曜日、午後0時30分

◎活動状況

膀胱内の尿量を計測し、トイレ誘導のタイミングを図る介護機器を用いた研究の発表を行った。症例件数が少ないため、件数を増やし傾向をみていく。同時に来年度の研究についてテーマを募集した。また、毎月、施設の研究業績を医学研究所へ報告した。

◎今後の目標

職員が、自発的に発表したいと思ってくれるような職場環境を整備したい。

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

4

活動報告

1. 不穏症状と面会の関係

Web面会だけでなく、ビニール越しの面会を再開。新型コロナウイルス感染症による面会制限が長期化しており、家族の顔を見るや帰宅願望が増強されてしまうケースが見られた。また、一部家族や電話の問い合わせにて痛烈な批判を受けることもあり、感染予防対策と面会希望のバランス調整に苦慮した。利用者と家族双方にとってより良い対応を検討していきたい。

2. 施設内研修

規定されている研修項目に対し、担当部署や委員会で研修を企画し実施した。動画を活用したり、演習で実践に備えたりするなど、より効率的・効果的な研修を心掛けた。2023年度は外部の研修にも参加できるようになり、一部伝達研修も行った。

3. 高齢者に適するおやつを提供

米屋株式会社研究開発室と共同で開発した「高齢者に適する水羊羹」を、例年同様に提供し好評を得た。中秋の名月に因み9月27日に、68人の入所利用者(経管栄養を除く)に提供。お月見に因んだ音楽やポスター、ススキ、団子などを飾り、秋の夜を演出した。また、容器に「米屋」とわかるシールを貼付することで老舗ブランドであることが強調され喜ばれた。水羊羹の提供に対し、アンケートを実施。「また食べたいか」という設問に対し、「食べたい」が66人(97.0%)、「食べたくない」が1人(1.5%)、「甘いものは苦手」が1人(1.5%)であった。今後も利用者により一層豊かな食を提供し、この取り組みを継続したい。関係者準備検討会は計6回開催。

4. 社会貢献活動

活動部署：デイケアセンター

開催日：2023.5.17、9.20、11.22

活動名：介護予防のための地域ケア個別会議

場 所：木村医院跡、佐倉市南部地域包括支援センター

活動部署：相談・連携課、リハビリテーション課

開催日：2023.6.8

活動名：佐倉市民カレッジあったか福祉コース

場 所：佐倉市立中央公民館

活動部署：デイケアセンター

開催日：2023.8.23、2024.2.5

活動名：佐倉地域ケア圏域推進会議

場 所：ミレニアムセンター佐倉

活動部署：リハビリテーション課、デイケアセンター

開催日：2023.9.20、10.4、10.18

活動名：介護予防講座としとらん塾

場 所：佐倉市立中央公民館

活動部署：デイケアセンター

開催日：2024.1.24

活動名：佐倉・南部地域医療・介護連携会議

場 所：旧堀田邸庭園記念館

活動部署：デイケアセンター

開催日：2024.3.26

活動名：茶話やかサロン弥勒町

場 所：弥勒町会館

5

関連施設

厚生園ケアマネジメントセンター

文責／高橋隆彦

スタッフ(2024.3現在)

主任介護支援専門員：常勤3名

高橋隆彦(管理者)、内藤順江、
外村直樹

介護支援専門員：常勤2名

村上育子、佐藤由美

活動状況

2023年度の目標は「佐倉厚生園病院の理念に基づき、安心できる在宅生活を支援する」としていた。

1. ケアマネジメントの質の向上については内部・外部の研修に参加し、スキルアップを図った。また法令遵守を意識し、毎週の定例会や、随時、事例検討等を行った。
2. 感染症対策を講じた上、佐倉市内の地域包括支援センターとの研修会等に参加し、連携の強化を図るとともに、情報交換を行った。また社会資源等の情報を整理・有効活用した。退院・退所後の在宅生活がスムーズに行えるように相談員等との連携を図り、利用者が安心して在宅に復帰できる基盤作りを行った。
3. 市町村や地域包括支援センター主催の勉強会に参加することで情報収集をすると同時に、各事業者との連携が取りやすくなるように関係作りに努めた。
4. 職員間でコミュニケーションを密にし、情報の共有化を図った。
5. 事業所間の連携を強化し、グループの活性化を図った。
6. 特定事業所加算を算定し、地域貢献を図るとともに収益の改善に努めた。
7. 学会・研修会参加者
 - ・ 村上育子：佐倉地域包括支援センター「情報交換会・座談会」(佐倉)2023.4.19
 - ・ 高橋隆彦：佐倉地域包括支援センター「地域の社会資源について」(佐倉)2023.5.10
 - ・ 高橋隆彦：佐倉地域包括支援センター「介護予防のための地域ケア個別会議」(佐倉)2023.5.17
 - ・ 高橋隆彦：さくらケアマネ協議会「改めて確認！予防プランの書き方について」(佐倉)2023.7.5
 - ・ 村上育子：さくら苑デイサービスセンター「運営推進会議」(佐倉)2023.7.10
 - ・ 外村直樹：聖隷佐倉市民病院「腹膜透析を体験してみませんか？」(佐倉)2023.7.15

- ・ 高橋隆彦：千葉県介護支援専門員協議会「どんとこい運営指導！令和4年度改正点を中心に」(千葉)2023.7.23
- ・ 高橋隆彦：佐倉・南部地域包括支援センター「事例検討会・独居の方の支援」(佐倉)2023.8.22
- ・ 高橋隆彦：佐倉地域包括支援センター「地域ケア圏域推進会議」(佐倉)2023.8.23
- ・ 外村直樹・佐藤由美：佐倉地域包括支援センター「ハラスメントについて」(佐倉)2023.9.13
- ・ 高橋隆彦、内藤順江、成毛育子、外村直樹：厚生園ケアマネジメントセンター・白翠園・風の村ケアプランセンター・さくら苑「4施設合同事例検討会」(佐倉)2023.9.25
- ・ 佐藤由美：佐倉地域包括支援センター「高齢者虐待について・情報交換会」(佐倉)2023.11.8
- ・ 佐藤由美：佐倉市役所「病院の地域連携室等関係者との情報交換会」(佐倉)2023.11.16
- ・ 内藤順江：南部地域包括支援センター「地域ケア圏域推進会議」(佐倉)2023.12.6
- ・ 村上育子：酒々井町地域包括支援センター「酒々井町多職種連携の会・認知症多職種協働合同研修」(酒々井)2024.1.18
- ・ 高橋隆彦、内藤順江、村上育子、外村直樹、佐藤由美：佐倉・南部地域医療介護連携の会「コロナ明け！顔の見える関係再び！」(佐倉)2024.1.24
- ・ 高橋隆彦：佐倉地域包括支援センター「第2回地域ケア圏域推進会議」(佐倉)2024.1.31
- ・ 高橋隆彦：さくらケアマネ協議会「第2回さくらケアマネ協議会研修」(佐倉)2024.2.16
- ・ 高橋隆彦、内藤順江、成毛育子、外村直樹：厚生園ケアマネジメントセンター・風の村ケアプランセンター・さくら苑「3施設合同事例検討会」(佐倉)2024.2.29
- ・ 高橋隆彦、村上育子：千葉県介護支援専門員協議会「令和5年度介護支援専門員更新研修専門Ⅱ」(千葉)2023.5.31、6.7、20、7.21-22、30、31、8.22-23
- ・ 内藤順江、外村直樹：千葉県介護支援専門員協議会「令和5年度主任介護支援専門員研修」(千葉)2023.11.8、16、26、12.4、10、25、1.10、16、31、2.9、10、19

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

今後の目標

佐倉厚生園病院の理念に基づき、安心できる在宅生活を支援する。

1. ケアマネジメントの質の向上

- ①積極的かつ定期的に、外部・内部研修等の参加と合同開催を行い、知識・技術を磨く。
- ②法令を遵守し、法改正に柔軟に対応できるよう努める。
- ③職員間の活発な意見交換を行い、より良いケアマネジメントに繋げる。

2. 地域包括ケアシステムへの参加

- ①各事業所と情報交換し、顔の見える関係を構築する。事業所間の繋がりをさらに深める。
- ②地域包括支援センター・医療連携室との交流・情報交換等を強化する。
- ③行政や民生委員との連携を強化する。